



平驛の九月の貨物

上中旬で千九百廿五圓増収 今年に梨の出荷が多い

平驛今九月上中旬の貨物成績一週平保健所の指導で育児指導は左記の如く一般荷の動きに
變りはないが特殊荷が概して
近距離のために兩旬収入一萬
五千二百八圓は前年の一萬三
千二百八十三圓に比して千九
百廿五圓の増収に過ぎざるも
下旬荷には名産石城梨がある
ので相當の収入を見込まれて
る今年の梨の出荷は上旬八
ト二車、中旬卅四車(昨年
は上旬一車、中旬廿五車)で
遠きは函館へ三車秋田へ九車
その他は東京方面への移出で
あつて昨年は十月の終りまで
に百六十六車(九月八六車十
月八十車)に達したが今年
は平市平産梨が大當りで(好問
方面は夏季の降雹被害のため
減收)荷造り資材の配給が圓
滑であれば二百車を超えるも
のと見られ此の収入のみでも
六千圓以上に及ぶものと云は
れてゐる

皇紀記念式典に 奉祝祭に参列

平市の藤田榮助氏
皇紀二千六百年を迎へ十一月
十日記念式典、十一日奉祝
ともに宮城外苑に於て舉行せ
らる、兩日平市藤田榮助氏は
本縣代表者として参列案内の

戦地の便り

領事館の屋上に 日章旗の感無量

石城下小川村出身
三邊 寛
謹啓、本日は御懸念なる御
慰問状を賜り欣喜雀躍仕儀
厚く御禮申上候、小兵も今
次作戦〇〇攻略戦に参加致
し炎熱の大戦を〇〇目指し
て進軍致し候、其の行程實
に三百軒を八日間の強行軍
戦闘を続け見事先月(六月)
十一日〇〇城に突入致し共
産軍の爲に變り果てた我領
事館屋上に燦然と日章旗を
掲げし時は萬感胸迫る思へ
を致候、此の度の大勝利は
既に新聞にて御承知の事と
存候、移動致しき爲め微し
い故郷の便りに接すること
能はず攻略後〇〇附近の警
備に任ざられ候折柄御慰問

育児指導講習

代用食の調理も
勿來町では明廿五日から三日

自十七至十九の 國民体力章

來月下旬に調査

國民体力章の検査實施につき
平市では來月下旬市内各
小學校々庭に於て十七才から
十九才までの男子(大正九年
十二月二日より同十二年十二
月一日までに生れたもの)を
各青年團長の手で該當調査を
行ひ向は警中、平商、平工の
生徒に對しては各學校に於て
同調査を行はれることになつ
てゐる

敵兵を捜索すと云ふこ
とをば捜索敵兵でソウ
ソオテイビーン、天幕
を張ると云ふを搭張棚
でターチンボン、大
勝を博すと云ふをば大
獲全勝でターホオチユ
ワンシオンと唱ひる

庭球大會

十三組の熱戦

平署コートに於て催された去
る廿二日の庭球大會は渡部署
長と堀内警防團長の神宮を目
指す壯行と經濟主任作田警部
補の東京警官講習所入りを送
る在平記者、警員、警防團員
の合戦で出場十三組、午前八
時からの競技が各組十二回つ
ゝ熱戦午後五時過ぎに及んで
左記成績を上げ十三等まで總
花の賞品を授與同署武道場に
時局柄素な宴を催して散會
した

勤王史上より觀たる 菊多莊の郷土的價值

諸報勿來

國史中、最も悲惨なりし吉
野朝時代、吾人奥羽の向背は
奈何? 乃ち建武の初亂より
其の北畠黨を支援するものは
素より白河結城であつたが、
僅に宗廣、二男親光父子に止
まり、興國四年後は長男親朝
以下の一族、親類悉く尊氏に
走り、常野奥の近郡諸豪亦彼
れに協同して降り、東北の内
線に残り忠節家は奥口の田村
中奥の葛西、奥方の南部三族
のみ。嗟夫、東北王業樹立の
如何に困難で、北畠黨の大節
も遂に空しく終つたのを察せ
られよう。

体育大會

廿九日平商校庭で
縣青年團主催の第十六回体育
大會は來る二十九日午前七時
十分から平市商業學校に於て
開催する

農業技術員會

來三十日平市で
第三郡下農會並に駐在技術員
協議會は來る三十日平市の郡
團體事務所に於て開催、農用
各資材の配給及び努力の調整
等につき協議する

出場の石城種馬

石城産馬組合に於ては來十月
九日から四日間郡山市に催す
縣種馬共進會へ左記三頭を出
すことになつた

時局と勞務動員

厚生省 (18)

女子についても一定業務に
使用する者の雇入に關し、現
在雇員數が一定員數に達し
てゐない場合、雇員得る總
員數につき職業紹介所長の認
可を受けてゐる場合等におい
てのみ雇入が認められること
とされたのである、
なほ、學務動員の四消な遂
行を期するためには、わが國
の全勞務者の状況を全雇員主

一、勞務動員計畫の設定
以上述べたやうに、わが國
の勞務動員計畫は、改正職員
法の勞務關係條項の次々の發
動によつて着々強化されて來
たのであるが、かかる勞務動
員を総合的に計畫化し、もつ
て他の諸國家計畫と共に、國
家總動員計畫の完備を期する
ことになつたのである、かく
して先づ昭和十四年度勞務動
員計畫の決定實施を見るに至
つたのであるが、昭和十五年
度については目下準備を進め

梨荷造り品評

平市西部果樹組合では今廿四
日午前十時から組合事務所
梨の荷造り品評會を開催縣試
石城分場矢ヶ崎技手の審査長
で五十餘箱の出品を審査した

病氣悲觀の自殺

平市田町五三宮川理髮店の方
理髮師伊藤治郎作(三〇)は病氣
のため宮川方を退いてゐたが
全快の見込みなきを悲觀し二
十一日朝劇自決をなす

新興ダイヤペン付
ウエル萬年筆
二〇〇以上
ペン先ハ獨特ノ新合
金製耐酸、耐蝕、耐磨
金ペンニ劣ラズ感觸
而モ堅牢、優美、安價
ノ三拍子揃ヒニテ眞
ニ新興國策製品
代理店 魁文堂
電話三三三

の振興及び國民生活必需の確
保といつた長期戰態下にお
いて最も重要な四つの事項の
達成にある、従つて、勞務動
員計畫の對象となるべき産業
は、軍事産業、生産力擴充計
畫事業及びその附帯産業、輸
出産業、國民生活必需品産業
並に運輸通信業であつて昭和
十四年度においては勞務の増
加需要と減耗補充とを合せ
計し、更に滿洲開拓民を合せ
一般勞務者の所要數は約百十
萬人と推算されてゐる、

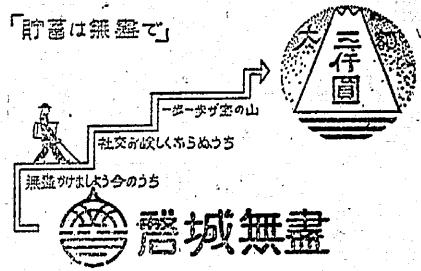
農業

東亜一環の農村國土(四)

この計書下に統制からの矛盾も打開現在農村には産業組合等の預金からなる過剰資本でたぶつき、専らこれは商工部門の投資に誘導されてゐるこれを土地に投資する際には一反歩四、五十人の労働力を有する土地が十人以下の勞力で十分に生産率を高め得られる、富山縣の淺井村では七八萬圓を五百町歩の耕地に投資して勞力を三分の一以下に削減し得たのである、一町村に約十五萬圓を限度とし一萬町村に十五億圓、この數字はちよつと膨大ではあるが、これは五ヶ年計書でも、七ヶ年計書でもよろしい、永遠の休耕確立のためにはさう高價なものではないと思ふ、高度集約農業の確立こそは普通農村地域に課せられた至上命令的義務である、

▼工業地都市周辺地域に就て、工業地都市周辺農村地域には原則として都會地に必要な蔬菜類、青果物の高度農業が奨励されるべきである、現在の都會地周辺の農村を見ると農村の中でも最も畸形的存在である、農家の子弟の多くが工場、會社等で得る俸給に依存して生計をたてゝゐる關係から増産の熱意もなければ小遣ひ稼ぎの氣分が多いのは最も遺憾である、

例へば大阪近郊の農業地域は地帯はこの良き例で過小農業による矛盾が極めて顯著に示されてゐる。



肉の御用命は

三三屋

牛も豚も優良品の自慢

根本産人科醫院

平市南町

根本莊次郎
根本貞雄

電話三四番

(入院隨時)

レストラン サロ

食 事。 喫 茶。

酒場を兼ねた。

営業時間

開店：午前十時
御食事は午前十一時より、
閉店：午後十一時限り、

平市銀座街
電話五九二番

男女車掌募集 数名

年齢 16—19

未経験者ニテモ可
給料其他委細面談

平市驛前

野崎交通自動車株式會社

電話四〇・三四三

大小の御宴會にホール
御家族の御同伴に御座敷
いつも材料を吟味して居ります

マルトモ食堂

平市四丁目(電話二二三番)

安田系統の帝國海上

帝國保險株式會社

火災 海上

平代理店 關内正一

事務取扱者 阿部助次郎

平市二丁目 電話一六番

完璧の防空は
先づ我れ等の手で

燈火管制用
クレツプ

の御利用を

紙ンメリチ

本クレツプ紙は強靱無比、布に比し價格低廉なる事、内面は吹雪模様、縞模様等にて休裁優美にて而も遮光萬點、(事務に：作業に：家庭に：是非御覧の上御利用下さい、

町村関係、警防團等大量御購入の節は特に御相談申上げます、

代理店 三國屋印刷所

四丁目 才組小路
驛前 田島製本
大町 紺屋町
湯本町 岡田園茶舗

診療科目

一、齒科 一般
保存科、補綴科、繼續架工科、齒列矯正科、小兒科、齒槽膿漏科、

一、口腔外科

一、レントゲン科

平市田町(松月堂向)

中野齒科醫院

院長 日本齒科醫學士 中野憲次
日本醫學士 藤谷伍郎
主任 佐藤重義

電話五〇九番

債券、公債
兩替、金融

多田井質店

平市大工町 電話五九一番

カバンと洋品類

平市驛前(新通り)

眞砂屋

電話五六

附屬産院 新設

妊産婦入院隨意

木村病院

婦人科 産科

平市新川町
電話一六四番